

(第三種郵便物認可)

鏡山へんろ同行会

保存へ88体の石仏探し

2016/1/3



民泊で鏡山を訪れた高校生たちがカマド。お遍路に興味を持ってもらう取り組も活発

唐津市の鏡山山頂を取り巻くように存在するお遍路コース。この特定を保存に取り組んでいるのが「鏡山へんろ同行会」だ。

きっかけは代表で元県職員の高瀬茂さん(61)が昨年12月、偶然見つけた石仏に「五十四」「五十五」「五十八」の数字が書かれていたこと。

「お遍路だとびんときた。だとすれば、四国の八十八カ所めぐりと同じ、88体の石仏があるはずと」。昨年1月から、ほかの石仏探しを始め、88体のうち70体を見つけた。石仏の置かれた場所から約4キロのコースを

推測した。

四国遍路は平安時代の弘法大師ゆかりの寺めぐりで江戸時代に流行。全国で「二八十八カ所」が広がり、鏡山でも大正時代についに「れたとみられる。

今、地元住民でも鏡山遍路を知る人は少ない。「だからこそコースを残し、歴史を伝えていかなければ」と広瀬さん。月1回、仲間5人とともに山林の中の歩道を清掃したり、民泊で訪れた中高生たちをカマドし遍路の話をする。興味を持つ人が増えることが、歴史を守る担い手へついになると信じている。(日高勉)